

地域みんなで人づくり

小中高一貫ふるさとキャリア教育 スタートアップ・ガイドブック

～地域の魅力再発見・地域の教育力向上～



北海道教育委員会



目次

1	はじめに～地域と学校が連携したキャリア教育の大切さ～	1
2	「地域と学校が連携したキャリア教育」を取り入れる魅力は？	2
	(1) 子どもたちにとって	
	(2) 学校の先生たちにとって	
	(3) 保護者の皆様にとって	
	(4) 地域の方々にとって	
3	「地域と学校が連携したキャリア教育」を推進する体制はどうつくるの？	3
	(1) 目指すところを同じとするための場をつくりましょう	
	(2) みんなで「熟議」にたどり着くまで	
	(3) さあ、やってみましょう！	
	(4) 参考となる事例	
4	「地域と学校が連携したキャリア教育」でそれぞれに期待される役割	7
	(1) 学校に期待されること	
	(2) 市町村教育委員会に期待されること	
	(3) 地元自治体に期待されること	
	(4) 北海道教育委員会に期待されること	
	(5) 関係機関や産業界に期待されること	
	(6) 地域の方々に期待されること	
5	地域の特性を輝かせる取組事例	11
	(1) 地域産業をテーマとして、地元で働くことについて考える取組	
	(2) 地元で暮らす人々の生き方をテーマとして、自分の生き方について考える取組	
	(3) 地域の課題をテーマとして、これからの地域の未来を考える取組	
	(4) 「地域と学校が連携したキャリア教育」により協働体制が整った取組	
6	参考資料	13
	(1) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」実施要綱	
	(2) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」概要図	
	(3) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」における全研究指定校共通の評価指標	
	(4) キャリア教育に関わる資料リンク	



1 はじめに～地域と学校が連携したキャリア教育の大切さ～

道教委では、平成27年度から平成29年度の3年間、道内の小・中・高校合わせて50校を研究指定校とし「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」に取り組んできました。

本事業は、子どもたちが生まれ育ったまちや地域の自然や歴史、産業などに興味関心を持つとともに、それぞれの地域ならではの魅力に小中高12年間を通して関わることで、自分の役割や生き方を見つめる教育の実践を目指してきました。

こうしたふるさとを題材として地域と学校が連携して行うキャリア教育を、道内の多くの小中高校や市町村で取り入れることができるよう、本ガイドブックを作成いたしました。特に、地域産業などの魅力を子どもたちに伝えていくためには、学校が地域の皆様に協力をいただいて実践していくことが重要です。本ガイドブックを参考とし、今後道内の各地域で学校と地域がともに行うキャリア教育を通して、子どもたちが社会の中で役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していくことができることを願っています。



●キャリア教育とは

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方の実現を促すものです。

地域と学校が連携して行うキャリア教育の大切さはここに！

○ これからの時代を生きる子どもたちのために

これからは、社会の変化にいかに対処していくかという受け身の観点に立つのではなく、変化を前向きに受け止め、人間ならではの感性を働かせて社会や人生をより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる力を身に付けることが求められています。



○ 地域全体で子どもたちを育てるために

このため、学校と保護者や地域住民は、お互いの情報や課題を共有し、これからの時代を生きる子どもたちのために共通の目標やビジョンを持つなど、共に子どもたちの成長に関わっていくような体制をつくり、子どもたちが信頼できる大人と関わる機会を多く設けていくことが必要となります。



○ 地域の関係機関との連携・協働体制の構築に向けて

地域には、自治体や社会教育関係団体のほか、教育に高い関心をお持ちの企業の方などもいらっしゃいますので、こうした皆さんと連携・協働し、子どもたちの学びを充実させていくことが重要です。



○ 地域創生のために

北海道においては、地域の人口減少は喫緊の課題です。地域全体で体制をつくり、子どもたちを育てていくことは、将来の地域を支える人材を育成することにつながります。



2 「地域と学校が連携したキャリア教育」を取り入れる魅力は？

地域と学校が連携したキャリア教育を行う魅力には、主に以下の4つがあります。



● 地域ぐるみの人づくり

地域でどのような子どもを育てていくか、何を実現していくかという「目標・ビジョン」を共有できます。



● 地域ならではの取組の継続

学校の管理職や特定の教職員の異動があっても、学校、地域、関係機関、産業界等との連携・協働体制がつくられることにより、これまでのよい取組が継続していきます。



● 地域の協働活動

学校や地域、子どもたちが抱える課題に対して、関係者が当事者意識を持ち、役割を分担して取り組むことができます。



● 相互理解の深化

学校と地域が連携・協働して取り組むことにより、学校が地域の特色や課題をより深く理解するとともに、地域も学校の教育活動や課題への理解を深めることができます。

キャリア教育は、子どもたちに社会や職業との関連を意識させる学習でもあり、広く保護者や地域住民の皆さんにも協力していただける機会をたくさん創り出すことができます。地域における教育の目標や課題を共有しながら、学校でのキャリア教育に関わることにより、それぞれの立場や役割が明確になっていきます。

(1) 子どもたちにとって

- 社会につながる学びや体験活動が充実します。
- 地域への興味・関心や理解を深め、地域で働くことの意義や地域で生活することへの自信と誇りを持つことができるようになります。
- 地域の担い手としての自覚が高まります。

(2) 学校の先生たちにとって

- 地域の人々の理解と協力を得たキャリア教育を進めることができます。
- 小中高などの発達段階を踏まえたキャリア教育を計画することができ、重点として指導する項目が明確になります。

(3) 保護者の皆様にとって

- 学校や地域に対する理解が深まります。
- 地域の中で子どもたちが育てられているという安心感が高まります。
- 保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。

(4) 地域の方々にとって

- 地域の未来を担う人材を育成できます。
- 学校を中心とした地域ネットワークが形成されます。
- 地域の魅力を高め、地域創生や移住・定住などの活性化について地域ぐるみでの熟議や連携・協働が図られる基盤ができます。



3 「地域と学校が連携したキャリア教育」を推進する体制はどうつくるの？



(1) 目指すところを同じとするための場をつくりましょう

はじめの
一歩

- ・学校は、自校のキャリア教育に関する取組状況を分析し、児童生徒に身に付けさせる資質・能力を明確化します。
- ・そのために必要な取組を系統的に配置した、キャリア教育の全体計画を作成します。
- ・全体計画から、地域のどのような機関、団体、組織にどの場面でどのような支援を求めたいか整理しておきます。

組織をつくる

- ・「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」では、研究指定校が所在する地域ごとに「地域未来づくり会議」を設置して共通の目標やビジョンを共有しました。

※「地域未来づくり会議」の設置に向け、教育局、学校、自治体が連携して主体的に準備委員会等を組織することが重要です。

- ・学校関係者評価委員会や学校評議員を発展させて設置する方法や、学校運営協議会を設置しているコミュニティ・スクールの例も参考としながら、学校や地域の実情に応じた組織づくりを行いましょ。

地域未来づくり会議に向けたチェックリスト

- 会議で協議する主な内容（議題）は決まりましたか？
- 会議の人数やメンバーは決まりましたか？
- 年間活動計画は決まりましたか？
- 会議の進め方は決まりましたか？
- 会議の名称は決まりましたか？
- 教職員に会議は周知しましたか？
- 校内分掌との関連付けは決まりましたか？
- 保護者に会議は周知しましたか？
- PTA活動との関連付けは決まりましたか？
- 保護者に参加・協力依頼を行いましたか？
- 地域の実態は把握していますか？
- 地域住民に会議は周知しましたか？
- 地域住民に参加・協力依頼を行いましたか？

◆推進体制のモデル



委員の
選出

- ・会議の構成や人数については、実質的で活発な議論を通じて地域と学校が進むべき一定の方向性を決定できる程度の人数が必要であり、学校とともに実行していく委員を選出することが大切です。
- ・委員には、学校の校長や教頭、保護者や地域住民のほか、自治体職員や産業界の代表者、企業経営者、教育委員会事務局職員（指導主事や社会教育主事）等が考えられます。

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業 ～地域未来づくり会議組織構成～

所属	職
〇〇大学	教授
経済団体関係者	(役付)
経済団体関係者	(人材育成担当)
北海道〇〇高等学校PTA	会長
〇〇町立〇〇中学校PTA	会長
〇〇町立〇〇小学校PTA	会長
(家庭教育サポート企業)	
(家庭教育サポート企業)	
〇〇町役場	(役付)
〇〇町役場	(人材育成担当)
〇〇町教育委員会	教育長
北海道〇〇高等学校	校長
〇〇町立〇〇中学校	校長
〇〇町立〇〇小学校	校長
〇〇教育局	教育支援課長



3 「地域と学校が連携したキャリア教育」を推進する体制はどうつくるの？

(2) みんなで「熟議」にたどり着くまで



共通の目標を設定

- ・学校と地域が抱えている課題は複雑かつ多岐にわたっており、学校だけ、地域だけで解決することが難しくなっています。そのため、学校は、地域の意見を取り入れ、地域との協議を図りながら教育活動を展開していくことが必要です。
- ・学校と地域が課題を認識し、共通の目標やビジョンを持つことが大切です。



協議する内容

- ・協議の主題としては、「学校が地域に求める支援について、どのように実現できるか」といった学校の支援方策に関わるものや、「地域が抱えている課題に対して教育からどのようなアプローチができるか」など、それぞれの立場から協議したい内容を準備して臨むことが大切です。

◆協議の流れ

課題の整理
解決の方策
支援内容
支援体制
推進体制
年間活動計画

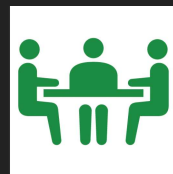
熟議してみよう

- ・関係者が、みな当事者意識を持ち、地域でどのような子どもを育てていくか、何を実現していくかといった協議を、「熟議（熟慮と議論）」の手法を取り入れて行うことが大切です。

- ◆ 「熟議」とは、よりよい集団（学校）生活や人間関係を築くために、「協働して取り組む一連の自主的、実践的な活動」を「話し合い」を重ねながら生み出そうというものです。

[熟議のプロセス]

- 1 多くの当事者（保護者、教職員、地域住民等）が集まって、
- 2 課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
- 3 互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
- 4 それぞれの役割に応じた解決策が導き出され、
- 5 個々人が納得して自分の役割を果たすようになる



熟議の展開例

(60分)

項目	時間	実践内容
オリエンテーション	5分	なぜ、熟議に至ったか目的を確認します。
テーマに関わる資料の共有	10分	テーマについての知識・背景を共有します。
熟議（前半）	20分	自己紹介→意見（思い）をたくさん出す。（付箋を利用）
熟議（後半）	15分	前半で出た意見について、方向性を持って話し合います。
グループごとの発表	5分	各グループ1分程度でまとめ、全体で発表します。
終わりの挨拶	5分	今後の話し合いの場をどこで持つかを提案します。



3 「地域と学校が連携したキャリア教育」を推進する体制はどうつくるの？

(3) さあ、やってみましょう！



協働へ

- ・「熟議」を通して学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「参画」し、共通の目標に向けて「協働」して活動していくことが大切です。
- ・このため「熟議」で提案されたプランを、課題解決や目標達成に向けた具体的取組につなげていきます。
- ・その中核となる学校においては、校長がリーダーシップを発揮して、教職員が目指すべきビジョンの達成に取り組めるようにするとともに、地域との関係を構築し、地域人材や資源等を生かした学校運営を行っていくことが必要です。

① 地域未来づくり会議の活動方針や活動内容、目標等を地域に公表し、地域の理解を深め協力者を増やそう！

学校が現在取り組んでいるキャリア教育の「成果報告会」を活用してイメージを伝える



- 地域未来づくり会議が主催し、小中高合同の成果報告会を、保護者や地域住民等を対象に開催
- 保護者や地域住民の参加を促すため「講演会」を同時開催するなどの工夫
- ワークショップを開催し、みらい会議について多くの人に伝え、共通理解を図り協働していく仲間を増やす

② それぞれが役割を果たして協働しよう！

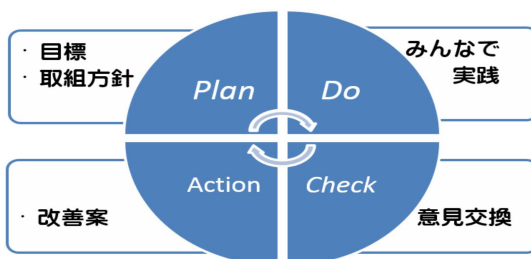
・自治体が、地域人材リストから地元で活躍する人物を学校にコーディネートしました

・経済団体が企業の人材育成担当者をみらい会議に派遣して熟議に参加させました

・団体職員をしている保護者が、公民館活動と子どもたちのキャリア教育のコラボを提案しました

・町内会から学校花壇の手入れに協力したいと申し出がありました

③ 評価指標や検証の方法を設定して地域未来づくり会議の評価・改善サイクルを確立しよう！



④ 改善した取組や新たな取組等を地域に公表し、協働の質を高めよう！

SNSを活用すると、多くの方からコメントも得られやすく参画意識が高められます

目標達成に向けて地域と学校が協働体制を整える例



3 「地域と学校が連携したキャリア教育」を推進する体制はどうつくるの？

(4) 参考となる事例



●宗谷管内 みらい会議から地域への発信を積極的に行った事例

- 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業に取り組む利尻高校、利尻中学校、沓形小学校、仙志小学校を支援するため、「宗谷管内地域未来づくり会議」を設置。
- 同会議では、利尻町でのキャリア教育の取組を管内全体に広く紹介するためのリーフレットを作成し周知。
- また、宗谷総合振興局の移住・定住事業とコラボして、高校生が自分たちの住む地域住民から、まちの良さや仕事を聞き取ってまとめる「宗谷ひと図鑑」の作成を提案。



取組紹介リーフレット

子どもたちが地域の方が総ぐるみで自分たちの成長に関わってくれていると実感

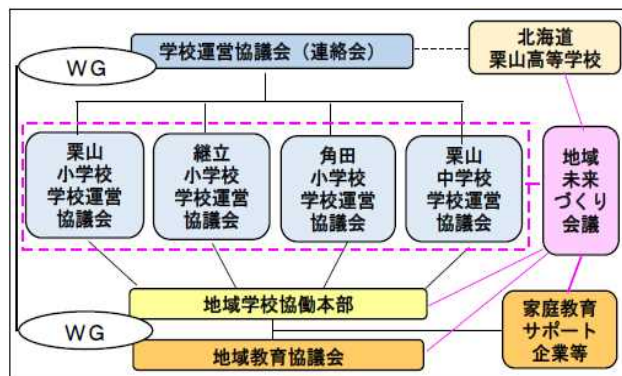
地元の良さを再発見、地元を心に残る、地元で何ができるか考える



宗谷ひと図鑑

●栗山町 みらい会議とコミュニティ・スクールの連携事例

- 栗山町では、平成28年4月に町内の小中学校4校でコミュニティ・スクールを導入し、「ふるさと教育」等を推進。
- 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業に取り組む各学校を支援するため、「地域未来づくり会議」を設置。同会議は地域教育協議会などとも密接に連携することにより、研究指定期間にとらわれず、持続的に地域と連携して行うキャリア教育の実施体制を構築。



コミュニティ・スクールとの連携で、地域ならではのキャリア教育が継続

児童生徒がふるさとに自信と誇りを持ち、地域からの期待に応えようとする



4 「地域と学校が連携したキャリア教育」でそれぞれに期待される役割

(1) 学校に期待されること



小学校においては

- 小学校において地域は子どもたちが同年齢、異年齢の人たちと自由に遊び、活動できる場であり、地域での活動等の中で、自分の役割を果たそうとする意欲や態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすることが期待されます。
- ボランティア活動、自治体や公民館の活動、お祭り等地域行事への参加など、子どもたちが地域の魅力に触れ、地域への愛着が生まれる活動が期待されます。

中学校においては

- 中学校において地域は多様な人間関係を体験することができる場であり、外部講師による講話やグループワークなど、学校と地域が連携した取組を通して、望ましい勤労観や職業観を形成することが期待されます。
- 保育・福祉体験、職場体験活動、伝統芸能などの地域行事への参加など、多様な人との関わりを経験し、地域や地元企業に対する理解を深める活動が期待されます。

高等学校においては

- 高等学校において広く地域や社会の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながり、キャリア教育の推進や学校の魅力化、特色づくりに資するものです。
- これまで培われた地域や社会、企業等との関係を生かして、地域未来づくり会議を通じ、地域住民や近隣の大学の教員、地元の商店街、企業、NPO等の団体、地方公共団体等の協力を得ることが期待されます。
- 特に、地域の課題を高校生自らが地域と協働して解決していく地域課題解決型学習の実施など、高等学校と地域の双方向的な魅力を発信することも期待されます。

学校で推進していくために

- ① 児童生徒の実態や保護者及び地域等から期待や要請を踏まえ、目指す教育の方向性を教育目標として位置付けます。
- ② 教育目標に基づき、地域との連携を含めた具体的な教育計画をつくります。
- ③ 教育目標と教育計画を保護者や地域に公表し、協力が得られるようにします。
- ④ 学校の教育活動の中で子どもたちの成長をとらえ、地域にお知らせします。

この各段階で、みらい会議での熟議を通して、地域と協働して学校の教育を行えるようにすることが大切です。

この段階では、学校教育と地域の関わりの効果や、地域としてとらえている成果や課題などについてもみらい会議で取り上げ、より良い方向性を常に考えることが期待されます。

学校を
核とし
た地域
創生

- 学校は、「子どもたちの学びの場」のみならず、「地域コミュニティの核となる場」
- 子どもたちは地域によって育てられ、地域は子どもたちによって支えられることから、地域への愛着・誇りを育み、夢や希望を持って地域の未来を切り拓く人材の育成を行うことが、地域づくりを支える



学校が 地域の人々をつなぎ×地域の絆をつなぎ×地域の未来をつなぐ



4 「地域と学校が連携したキャリア教育」でそれぞれに期待される役割

(2) 市町村教育委員会に期待されること



役割 → 教育振興基本計画への位置付け、ビジョンと推進目標の明確化

- 設置している学校の将来像を校長と共有するとともに、地域との連携・協働体制を確立するため、キャリア教育を推進することが求められます。
- 地域住民や保護者等に対しても、取組の必要性や成果を広く周知するなど、学校への理解と参画を促す環境づくりが重要です。

推進していくために

- ・ 学校関係者、地域住民等に対する積極的な普及・啓発（学校の取組を紹介するキャリア教育フォーラムや研修会等の開催、熟議の場づくりなど）
- ・ 地域住民や保護者等の参画促進、関係機関・団体等の連携・協働の促進
- ・ 地域と学校が連携したキャリア教育は、取組の発展的な結果としてコミュニティ・スクールを導入することや、コミュニティ・スクールの導入検討とみらい会議を同時並行しながら取り組むことなども考えられます。

大樹町教育委員会の取組

- ・ 大樹町では、町議会が主催して平成24年度から「子ども議会」を実施してきたが、選挙権年齢が18歳に引き下げになることを契機に、平成27年度からは高校生を対象に「高校生議会」として開催し、高校生が身の回りにある問題や町の施策について質問を行っている。
- ・ 平成27年度の同議会では、高校生から、小中学校に赴き勉強を教える「ミドルティーチャー計画」の提案があり、教育長が検討すると回答したことを受け、町教委では平成28年度から「夏休みチャレンジスクール」として事業化して取り組んでいる。



地域の一員として主体的に考え、社会に参画する意識

高校生議会で提案

大人が本気で答弁し、町教委が事業化

やれば社会は変わる！（自己有用感の醸成）





4 「地域と学校が連携したキャリア教育」でそれぞれに期待される役割

(3) 地元自治体に期待されること



- 地元自治体は、地域の課題について、関係機関と共有することを進め、様々な視点から課題の解決が図られるようにするとともに、学校のキャリア教育として、まちの課題に主体的に関わろうとする児童生徒を支援する環境を整備することが大切です。

富良野市の取組

- ・富良野市では、市内の小中高校で行われるキャリア教育を「まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略」に位置付けて実施しており、目的を共有化した取組が全市的に行われている。
- ・小中高校生と大人が一緒になって富良野を学ぶ「ふらのみらいらぼ」を開催し、地元で行われてる結婚式をプロデュースする体験活動や、高校を卒業してもふるさと富良野を好きでいてもらいたいとの願いを込めて、市民がランタンを飛ばすプロジェクトが実施されている。



(4) 北海道教育委員会に期待されること



役割 → 北海道教育推進計画の基本理念と目指すべき目標の明確化

- 域内市町村の教育委員会や学校関係者等に対し、キャリア教育の推進等への理解促進を図るとともに、管内での成果の普及や取組の推進が求められます。

持続可能な取組とするために

各教育局が学校と地域、関係機関との橋渡し役となり、地域未来づくり会議をコーディネート

- ア 地域の特性や教育資源として生かす方法を提案
- イ 自治体の取組との協働をコーディネート
- ウ 振興局の事業とのコーディネート
- エ 小中高ふるさとキャリア教育推進事業の研究指定校を中心に、地域として取組を継続することや他の地域への普及拡大に向けた指導・助言

取組を推進していくために

(総合)振興局、自治体・教育委員会、学校関係者等を対象としたフォーラムの開催



フォーラムの例



4 「地域と学校が連携したキャリア教育」でそれぞれに期待される役割

(5) 関係機関や産業界に期待されること



- 人は仕事を持つことによって、社会と関わりながらその責任を果たし、生計を維持するとともに、自己を実現していくことから、地域や社会における様々な産業の役割を理解することが大切です。関係機関や産業界の皆様には、学校で学ぶことと社会との関わりについて学習する機会への支援をお願いします。

企業の協力を得た体験学習

留萌千望高校、留萌中学校、緑丘小学校

- ・子どもたちが、仮想のまちの中で実際の職業を体験し、社会の仕組みを学ぶ「キッズビジネスタウン」の取組では、地元のコンビニや食堂、銀行、放送局など様々な企業から、実際に使用しているユニフォームやレジなどの資材を提供していただき、リアリティのある体験学習を行っています。



働くことについての講演会

北広島西高校

- ・職業人として働いている方が、「どのような思いを持って働いているか」「人とうまく信頼関係を築くには」などについての実体験を語っていただくことは、子どもたちが将来の自分の在り方を考える上で貴重な体験となります。



(6) 地域の方々に期待されること



- 子どもたちには、様々な現代的課題を適切に解決していく力が求められることから、地域の異世代の人々と関わるなど、人とよりよく関わる力を育成するための学習活動への支援をお願いします。



地域の未来図をともに描く「次世代育成交流会」の様子



地域おこし協力隊の方と地域の未来について熟議！



5 地域の特性を輝かせる取組事例

(1) 地域産業をテーマとして、地元で働くことについて考える取組

清里高校

地元って農業が中心だけどよく知らないかも？

地域の農業について、農協職員を講師とした出前授業を実施（地域農産物ベスト5、農家の実際の暮らし、品質の高さの実験など）

「ふるさとレシビ」の開発にチャレンジ

地元のレストランで商品化 → 製造・販売実習

「農業に関係する仕事はたくさんあるんだ」と気付く生徒が増加し、地元で生計を立て暮らしていくことに見通しが持てる



地域に貢献しようとする態度の育成



(2) 地元で暮らす人々の生き方をテーマとして、自分の生き方について考える取組

穂別中学校、栗山高校、福島中学校



(左) 中学校で、地域で活躍している方々3名を招いて「地域づくりを支える人」をテーマにフォーラムを開催。

(中) 高校で、地元での創業年数が長い企業の関係者数名を招いて、まちの産業や歴史、創業の由来などをインタビュー形式で聞く会を開催。

(右) 中学校で、地元で働く卒業生の先輩を招いて、中学校時代にどんなことを考え、なぜ現在地元で働いているかについてのトークセッションを開催。





5 地域の特性を輝かせる取組事例

(3) 地域の課題をテーマとして、これからの地域の未来を考える取組

平取中学校、平取高校



(上) 中高校生が、町に対して町で暮らす中での疑問や、暮らしの改善に関する提案を行う「こども議会」を実際の町議会場で開催。

(下) 中学校と町のまちづくり課が連携し、町の移住定住促進施策に関わる出前授業などを通して、未来のまちづくりに向けた提言を提出。
町も回答書を作成するなど大人も本気で向かい合った取組。



(4) 「地域と学校が連携したキャリア教育」により協働体制が整った取組

羅臼高校、羅臼中学校、春松中学校、羅臼小学校、春松小学校



- 町教委が主導し、「地域に育ち、地域を育てる人材を育成する」という目標のもと、幼小中高一貫教育研究会を組織。
- 地域の生態系や歴史、産業を学ぶ「地域学」をすべての校種に導入し、系統的に地域の理解を深める実践。
- 地域をキーワードに、様々な分野で活躍する方々がそれぞれの立場で教育を支援し、小さな時から町の子どもの成長を支えていく環境を構築。



6 参考資料

(1) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」実施要綱

小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業実施要綱

(平成27年 8 月 4 日 教育長決定)

(平成28年 9 月 12 日 一部改正)

1 趣旨

地域の未来を担う人材を育成するため、道や市町村などの行政機関、地域の産業界など関係機関・団体の支援を受けながら、研究指定校において、家庭生活の大切さや子どもを育てることの意義についての学習や、小学校、中学校、高等学校間の体系的なキャリア教育に取り組み、もって本道におけるキャリア教育の充実を図る。

2 研究指定校

各管内から、原則として、同一市町村内の道立高等学校等、小学校及び中学校各 1 校とする。

3 研究指定の期間

平成27年度から29年度までの原則 3 年間とする。

4 研究指定校の取組内容

(1) 「地域ダイスキ！プロジェクト」

地域の良さや地域での生活を営むことの意義等について理解を深めるため、研究指定校が連携を図りながら、次のことに取り組む。

ア 研究指定校は自校のキャリア教育に関する取組状況を分析し、課題を明確化する。

イ 小学校、中学校、高等学校の12年間を見通したキャリア教育の全体計画を策定する。

ウ 地域の特性や教育資源を生かした取組（職業体験、ボランティア活動、地域活性化のアイデア提言等）を実施する。

エ 地域の人材等を活用したキャリア教育に関する講演会を開催する。

オ 小学校、中学校、高等学校の12年間を見通したキャリアノートを作成する。

(2) 「子どもダイスキ！プロジェクト」

地域で子どもを育てることの意義等について理解を深めるため、研究指定校のうち道立高等学校等において、次のことに取り組む。

ただし、アについては他の校種と連携して実施することを妨げない。

ア 高校生と地域住民等が意見交換を行う座談会を実施する。

イ 知事部局等が主催する出前事業等を活用し、子どもを育てること等をテーマにした学習を行う。

ウ 知事部局等が作成する家庭科副読本を活用した学習を行う。

5 事業の申請手続

(1) 道立高等学校等

本事業の実施による研究を希望する道立高等学校等は、実施申請書【別紙様式1】、学校の概要【別紙様式2】、実施計画書【別紙様式3】、実施計画書の概要【別紙様式4】を作成し、所定の期日までに、教育局を經由し、高校教育課長に提出する。

なお、実施計画書【別紙様式3】については、連携して研究に取り組む小学校及び中学校を所管する市町村教育委員会と十分な連携を図りながら作成すること。

(2) 市町村教育委員会

本事業の実施を希望する市町村教育委員会は、実施申請書【別紙様式1-2】、学校の概要【別紙様式2-2、2-3】を作成し、所定の期日までに教育局を經由し、高校教育課長に提出する。

6 研究指定校の指定

教育長は、上記5により道立高等学校等及び市町村教育委員会から提出された実施申請書、学校の概要、実施計画書及び実施計画書の概要の内容を精査し、研究指定校に決定する。

7 事業の実施方法

(1) 研究指定校は、提出した実施計画書等に基づき事業を実施する。

(2) 事業の推進体制

ア 「北海道キャリア教育推進会議」の設置

本庁は、本事業を円滑に推進するため、専門的見地からの指導、助言を行う「北海道キャリア教育推進会議」（以下、「推進会議」という。）を設ける。推進会議は、外部有識者や道教委関係課等によって組織する。なお、推進会議に関して必要な事項は、高校教育課長が別に定める。

イ 「地域未来づくり会議」の設置

教育局は、本事業を円滑に推進するため、専門的見地からの指導、助言を行う「地域未来づくり会議」（以下、「未来会議」という。）を設ける。未来会議は、外部有識者、PTA、道や市町村などの行政機関、経済団体、家庭教育サポート企業等によって組織する。

上記の市町村には、連携して研究に取り組む小学校及び中学校を設置する市町村のほか、未来会議に参加を希望する高等学校を設置する市町村を含むものとする。なお、未来会議に関して必要な事項は、教育局長が別に定める。

ウ 校内推進体制の構築

研究指定校は、本事業が全校的・計画的な取組となるよう、効果的な校内推進体制を構築する。

エ 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進連携フォーラム」の開催

本庁は、本事業に対する一層の理解と、連携・推進体制の強化を図るため、道や市町村などの行政機関、その他本事業の関係者による「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進連

携フォーラム」(以下、「連携フォーラム」という。)を開催する。なお、「連携フォーラム」に関して必要な事項は、高校教育課長が別に定める。

8 事業の計画及び報告

(1) 実施計画書の提出

研究指定校のうち道立高等学校等は、第2年次及び第3年次の年度始めに、前年度の成果と課題を踏まえるとともに、連携して研究に取り組む小学校及び中学校を所管する市町村教育委員会と十分な連携を図りながら実施計画書を作成し、所定の期日までに、教育局を經由し、高校教育課長に提出する。

(2) 実施報告書の提出

研究指定校のうち道立高等学校等は、各年度末に連携して研究に取り組む小学校及び中学校を所管する市町村教育委員会と十分な連携を図りながら実施報告書を作成し、所定の期日までに、教育局を經由し、高校教育課長に提出する。

(3) 提出時期等

上記8(1)(2)の提出時期や様式等については、高校教育課長が別に指示する。

9 成果の普及

(1) 研究指定校は、全道の小学校・中学校・高等学校の参考となるよう、学校ホームページ等を活用し、事業の取組状況や成果等について、積極的に情報提供を行う。

(2) 研究指定校は、各年度において、保護者や地域住民等を対象に報告会を実施する。

(3) 本庁は事業の最終年度に「北海道キャリア教育サミット」を実施する。

10 事業に要する経費

北海道教育委員会は、予算の範囲内で事業に要する経費を措置する。

11 事業の実施状況等に係る実態調査

北海道教育委員会は、必要に応じ、事業の実施状況及び経理状況について、実態調査を行う

12 その他

(1) 本事業に参加を希望する高等学校を設置する市町村が、未来会議に参加するなどして、研究指定校と連携して事業を推進することを想定している。

(2) この要綱に定めるもののほか、本事業の推進に必要な事項については、高校教育課長が別に定める

附 則

この要綱は、決定の日(平成27年8月4日)から施行する。

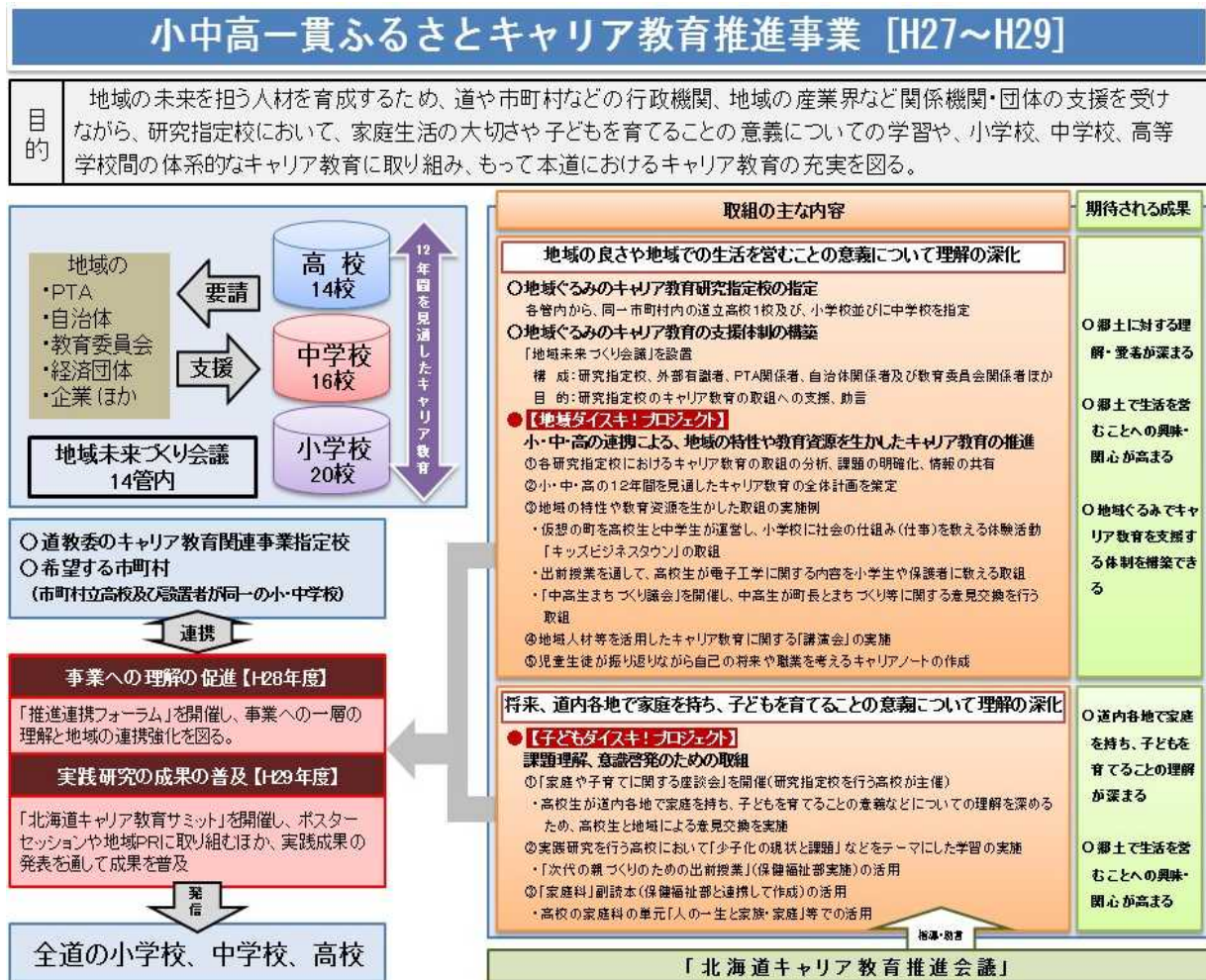
附 則

この要綱の一部改正は、決定の日(平成28年9月12日)から施行する。



6 参考資料

(2) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」概要図



(3) 「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」における全研究指定校共通の評価指標

1	学校対象(校長)の項目【体系的なキャリア教育】
(1)	[評価の観点] 小中高校の情報共有の状況について
	[評価規準] ① 小中高の連携による情報共有が行われていない。 ② 必要になった場合に小中高の連携による情報共有が行われている。 ③ 計画的に小中高の連携による情報共有が行われている。 ④ 計画的に小中高の連携による情報共有が行われ、改善方策等を検討し、各学校にフィードバックしている。
(2)	[評価の観点] 発達段階に応じて身に付ける能力等の目標設定について
	[評価規準] ① 小中高の発達段階に応じて、身に付けさせたい能力等が明確化されていない。 ② 小中高の発達段階に応じて、身に付けさせたい能力等が明確化されている。 ③ 小中高の発達段階に応じて、身に付けさせたい能力等が明確化され、その能力等の目標や評価規準、評価方法が具体的に設定されている。

(3) [評価の観点] 発達段階に応じて身に付ける能力等の定着度合いについて

[評価規準]

- ① 小中高の発達段階に応じた能力等が身に付いていない。
- ② 教師等の大人の指示に基づいて身に付けた能力を活用することができるが、児童生徒自らの判断によって活用できる段階にはない。
- ③ 児童生徒自らの判断に基づいて身に付けた能力を活用することができる。
- ④ 能力等がしっかり身に付いており、いろいろな取組を活用しながら、新たな課題を解決できる。

2 保護者、学校評議員等の学校関係者対象の項目【キャリア教育を支援する学校外の体制整備】

(1) [評価の観点] 学校との情報共有の状況について

[評価規準]

- ① 学校の管理職や関係する教職員との情報共有が行われていない。
- ② 必要になった場合に、学校の管理職や関係する教職員との情報共有が行われている。
- ③ 計画的に学校の管理職や関係する教職員との情報共有が行われている。
- ④ 計画的に学校の管理職や関係する教職員との情報共有が行われ、改善方策等を検討し、結果を再共有している。

(2) [評価の観点] 地域の教育資源を学校のキャリア教育に活用する状況について

[評価規準]

- ① 地域で活用できる教育資源がない。
- ② 地域に教育資源はあるものの、学校がそれを活用しきれていない。
- ③ 学校からの依頼に基づいて、地域の教育資源を活用している。
- ④ 地域（本事業の関係者含む）から教育資源の活用が学校に提案され、学校がそれを取り入れた教育活動を行っている。

3 児童生徒対象の項目

(1) [評価の観点] ふるさとへの理解と愛着について

[評価規準]（小・中学生）

- ① 自分が住んでいる地域のことについて、知っていることや好きなことが何もない。
- ② 自分が住んでいる地域のことについて、知っていることや好きなことはあるが、詳しく調べたり自分以外の人に話したりしたことがない。
- ③ 自分が住んでいる地域のことについて、知っていることや好きなことがあり詳しく調べたり自分以外の人に話したりしている。
- ④ 自分が住んでいる地域のことについて、自分で調べたり自分以外の人と話したり行動したりすることで、知っていることや好きなことが増えた。

[評価規準]（高校生）

- ① 学校が所在している地域のことについて、知っていることや好きなことが何もない。
- ② 学校が所在している地域のことについて、知っていることや好きなことはあるが、調査したり自分以外の人と協議したことがない。

- ③ 学校が所在している地域のことについて、知っていることや好きなことがあり、調査したり自分以外の人と協議したりしている。
- ④ 学校が所在している地域のことについて、調査したり協議したりするほか行動に移したりすることで、知っていることや好きなことが増えた。

(2) [評価の観点] ふるさとの生活に関する興味・関心について

[評価規準] (小・中学生)

- ① 自分が住んでいる地域の生活や行事、仕事などについて、興味や関心がない。
- ② 自分が住んでいる地域の生活や行事、仕事などについて、興味や関心はあるが自ら参加したり体験したりはしていない。
- ③ 自分が住んでいる地域の生活や行事、仕事などについて、興味や関心があり、自ら参加したり体験したりしている。
- ④ 自分が住んでいる地域の生活や行事、仕事などについて、興味や関心があり、自ら参加したり、体験したりすることで興味や関心が一層高まり、その後も地域の中高生や大人と積極的に交流を行っている。

[評価規準] (高校生)

- ① 学校が所在している地域の生活や行事、主な仕事などについて、興味や関心がない。
- ② 学校が所在している地域の生活や行事、主な仕事などについて、興味や関心はあるが、自ら参加したり体験したりはしていない。
- ③ 学校が所在している地域の生活や行事、主な仕事などについて、興味や関心があり、自ら参加したり体験したりしている。
- ④ 学校が所在している地域の生活や行事、主な仕事などについて、興味や関心があり、自ら参加したり、体験したりすることで興味や関心が一層高まり、その後も地域の中高生や大人と積極的に交流を行っている。

(3) [評価の観点] ふるさどで生活を営むことへの興味・関心について

[評価規準] (高校生)

- ① 将来、学校が所在している地域、または自分が生まれ育った地域で、社会人として生活することや地域の仕事、家族で暮らすことなどについて興味・関心がない。
- ② 将来、学校が所在している地域、または自分が生まれ育った地域で、社会人として生活することや地域の仕事、家族で暮らすことなどについて興味・関心があるが、自分から調べたりしたことはない。
- ③ 将来、学校が所在している地域、または自分が生まれ育った地域で、社会人として生活することや地域の仕事、家族で暮らすことなどについて興味・関心があり、積極的に自分で調べたりしている。
- ④ 将来、学校が所在している地域、または自分が生まれ育った地域で、社会人として生活することや地域の仕事、家族で暮らすことなどについて強い興味・関心があり、積極的に自分で調べたり、保護者や地域の大人に相談したりしている。



6 参考資料

(4) キャリア教育に関わる資料リンク

- 文部科学省「キャリア教育」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/index.htm
- 文部科学省「キャリア教育に関する答申、報告、会議」
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/detail/1312379.htm
- 国立教育政策研究所「進路指導・キャリア教育の更なる充実のための実践に役立つ資料」
http://www.nier.go.jp/04_kenkyu_annai/div09-shido.html
- 厚生労働省「女子学生の進路指導やキャリア教育にあたって」
http://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidou_kateikyoku/0000196697.pdf
- 北海道教育委員会（高校教育課「小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業」）
<http://www.furusato.hokkaido-c.ed.jp/>
- 北海道教育委員会（義務教育課「キャリア教育」）
<http://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/kyouikukatei/page.htm>

地域みんなで人づくり
小中高一貫ふるさとキャリア教育スタートアップ・ガイドブック
～地域の魅力再発見・地域の教育力向上～

平成30年6月発行

編集・発行 北海道教育庁学校教育局高校教育課
〒060-8544 札幌市中央区北3条西7丁目
TEL (011)204-5705
URL [http://www.career.hokkaido-c.ed.jp/
data/pdf/startupguidebook.pdf](http://www.career.hokkaido-c.ed.jp/data/pdf/startupguidebook.pdf)

